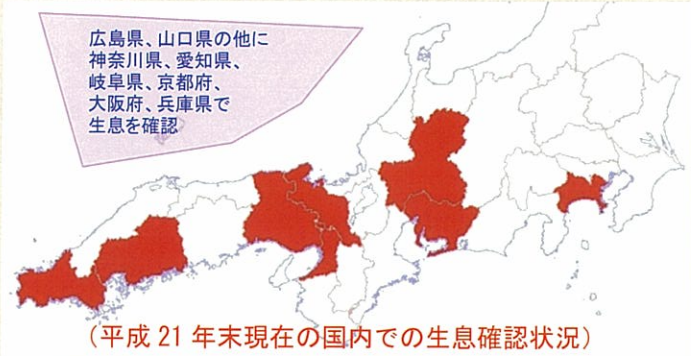


【 アルゼンチンアリとは 】

アルゼンチンアリは、南米原産のアリで、もともと日本にはいませんでした。

平成5年、広島県廿日市市で日本で初めて生息が確認され、平成13年には山口県でも確認されるなど、現在のところ8府県で生息が確認されています。



アルゼンチンアリは繁殖力がきわめて強いことから、新たに侵入した地域で、どんどん増えていきます。これまで生息していた在来のアリが減るなど、生態系への影響が懸念されることから、平成17年に特定外来生物に指定されています。

働きアリの体長が2.5mm、女王アリの体長が4.5mm程度と、決して大きいものではなく、毒を持っているわけではありませんが、大量に家屋に侵入したり、食べ物に群がったりするなど、人に不快感を与えたり、日常生活の支障となることがあります。

【 拡がる生息区域 】

広島県や山口県では、複数の市町で生息が確認されていますが、同じ市町の中でも、必ずしも生息区域が繋がっているわけではなく、点在している事例も多く見られます。

アルゼンチンアリは、飛ぶことにより広がっていくことはありませんので、人や物の移動に伴って、離れたところに広がっていると考えられます。

原因のひとつが、生息区域の土など（土、地面に直接置かれたプランター、植木鉢、ブロック、資材など）と一緒に巣ごと別の場所に運ばれるケースです。こういった物を生息区域から持ち出す際には、十分な注意が必要です。



運ぶときには、巣がないかしっかり確認！

【 駆除の方法 】

現在のところ、アルゼンチンアリの完全な駆除方法は確立されていませんが、普通のアリと同じように、殺虫剤で駆除することができます。

ただやっかいなことに、気づいた時には数が増え、広範囲に生息していることも多く、その数を減らすためには大変な手間と費用がかかります。被害軽減のためには、市販の殺虫剤の特性を十分知った上で、状況に応じ効果的に使用することが大切です。



アリの写真は、いずれもアルゼンチンアリ.jpより提供

【 生息しにくい環境づくり 】

アルゼンチンアリは、コンクリートの隙間や、地面に直接置いた植木鉢などの下に好んで巣を作ります。隙間を埋めたり、物を直接地面に置かないようにするなど、日頃から心がけ、生息しにくい環境をつくることも、被害を減らすためには大切です。



写真は、雑草防止のために敷いた除草シートをめくったところ、その下に巣を作っていた事例です。

【 アルゼンチンアリ対策広域行政協議会について 】

平成18年、広島県、山口県及び関係市により、「アルゼンチンアリ対策広域行政協議会」が設置されました。協議会では、被害状況の調査や防除試験等を行ってききましたが、国の「生物多様性保全推進支援事業」の交付を受け、平成20年から地域ぐるみの防除活動にモデル的に取り組んでいます。

取組では、地域の皆様と共に、一定地区内において薬剤を設置または散布して、区域内のアルゼンチンアリを巣ごと退治することを目指しています。

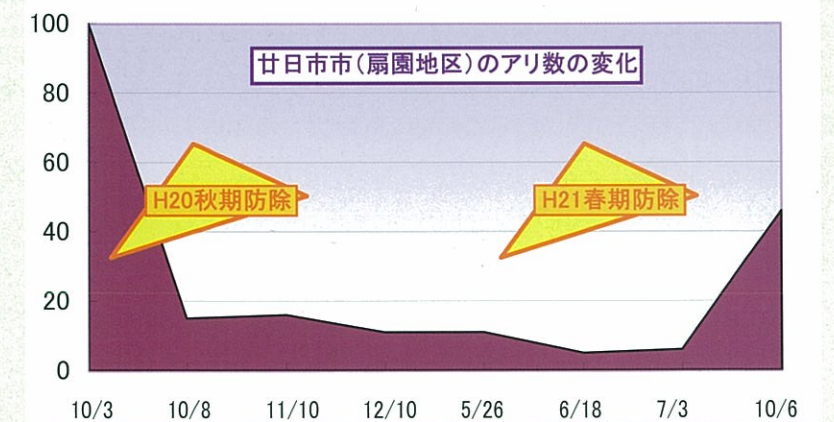
これまで、女王アリが成虫になる梅雨前、あるいはアリの数が最も多くなるとされる秋に、防除活動に取り組んできました。

市別の実施状況

	時期	地区名	対象世帯概数
廿日市市	H20秋	地御前1丁目(扇園)	230
	H21春	"	230
	H21秋	桜尾3丁目(1区、2区)	150
大竹市	H20秋	南栄3丁目ほか	280
	H21春	"	280
	H21秋	西栄3丁目ほか	290
岩国市	H20秋	黒磯2丁目ほか	100
	H21春	黒磯町、藤生町ほか	300
	H21秋	黒磯町、玖珂町ほか	740
柳井市	H20秋	馬皿地区(一部)	90
	H21春	"	180



防除活動にあたっては専門業者により、屋外の一定箇所に集まったアリ数の調査を行い、防除の効果を判定しています。



廿日市市(扇園)における調査では、平成20年秋期の防除前のアリ数を100としたところ、防除後には15となり、平成21年春期の防除後には5まで減少しています。その後、アリの数が増える秋においても、防除活動を行う以前の半分以下の数となっており、一定の効果が継続していると考えられます。

【 一斉防除とは 】

アルゼンチンアリの場合、女王アリは働きアリとともに巣が分かれながら生息範囲を拡げていくことから、それぞれの巣が繋がっていることも多く、実質的には一つの大きな巣の集団（コロニー）で生活していると言えます。

そのため、一部の範囲だけ駆除しても、すぐに周辺から再侵入して個体数が回復してしまいます。アルゼンチンアリの完全な駆除方法が確立していない現在、ある程度まとまった区域で、期間を決め、一斉に薬剤を使用する「一斉防除」が、最も効果的な方法と考えられます。

協議会では、自治会を中心とした一斉防除に取り組んできましたので、その方法について簡単に紹介します。

《 薬剤 》

協議会で使用した薬剤は、市販のベイト(餌)型殺虫剤と液体型殺虫剤で、いずれも遅効性で連鎖効果があり、巣を丸ごと退治することを目的としています。

ベイト(餌)型殺虫剤	液体	・アリメツ (有効成分:ホウ酸)
	顆粒	・アンツバスター ・アリの巣コロリ (有効成分:ヒドラメチルノン)
液体型殺虫剤		・アルゼンチンアリ巣ごと退治液剤 (有効成分:フィプロニル)

○ 液体型殺虫剤を主体とした防除

大竹市では、液体型殺虫剤主体により一斉防除を行っています。一斉防除開始までに予めアルゼンチンアリの生息状況（巣の位置や行列が頻繁に見られる場所）を確認しておきます。防除を開始してから2日目まで、朝夕2回を基本に、液体型殺虫剤をアリに直接散布します。

3日目の朝にベイト(餌)型殺虫剤を設置。翌日の夕方に回収し、5日目に再度液体型殺虫剤を朝夕散布しています。



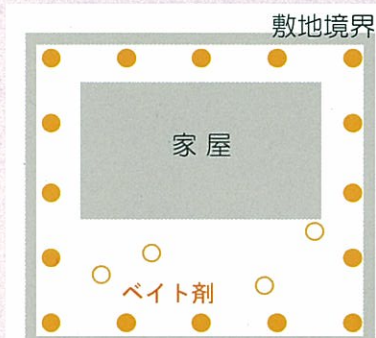
○ ベイト(餌)型殺虫剤を主体とした防除

廿日市市、岩国市及び柳井市では、ベイト(餌)型殺虫剤により防除を行っています。

ベイト(餌)型殺虫剤は設置しやすくするために、予めチューブに詰めておきます。また、設置の場所の目安となるよう、防除開始までにアルゼンチンアリの生息状況を確認しておきます。

防除の初日、液体と顆粒のベイト(餌)型殺虫剤を2個1組として、家の敷地境界や敷地内、また敷地を囲む道路脇等の場所に設置。2日目に交換、最終日に撤去します。

(柳井市では初日に顆粒、2日目に液体、それぞれ1個ずつと、他2市のほぼ半分の量で実施しています。)



敷地境界と敷地内に設置



協議会では、取組の結果を検証し、地域の皆様が自治会単位でアルゼンチンアリの防除に取り組む際の参考となるような、マニュアルを作成することとしています。

アルゼンチンアリ対策広域行政協議会

- 広島県自然環境課 082(513)2933
- 山口県自然保護課 083(933)3050
- 廿日市市環境政策課 0829(30)9132
- 大竹市環境整備課 0827(52)5224
- 岩国市環境保全課 0827(29)5100
- 柳井市市民生活課 0820(22)2111
- 宇部市生活衛生課 0836(34)8252

アルゼンチンアリの被害を防ぐために



アルゼンチンアリ対策広域行政協議会